菜園づくりの“気づき”を共有しあう情報誌

農 園 通 信

2025 年 3 月・4 月

発行・問合せ先：島本町農業振興団体協議会・町民農園部会　福田

fukuda-ka@amail.plala.or.jp

3月、4月の農作業

5月初めのジャガイモ畑

【（2月）3月ジャガイモ（ナス科）の植え付け】

・連作を嫌うので、ナス科（ナス、トマト、ピーマン）の後は避ける。（2，3年あける）
・石灰は要らない。土壌がアルカリ性の方に傾くとそうか病に掛かりやすくなる。
・切った種芋は2日ほど干して切り口を乾燥させてから植える。
・植え付けは切り口を下にして植える。逆さ植えは、切り口に水を受けて腐りやすい。植え付け前の数日は雨が降っていないことが望ましい。水が多いと芋が腐る。
・ジャガイモの実は、種芋より上に出来るので、種芋の上10cm は覆土する。
・ジャガイモは葉が出てから3か月半ほどで収穫を迎える成長の早い野菜。成長初期に肥料が効くよう、肥料は早く与える。植え付け時に種芋と種芋の間に置き肥をするのも1つの方法。
・4月の遅霜に注意。葉は霜に弱い。ある程度大きくなっていれば少し葉がやられても大丈夫だが、土から出た葉が小さい間は遅霜が来ないかハラハラ。心配な時は不織布等でトンネル掛けをする。遅霜さえ乗り切れば後は大丈夫、追肥をして、元気に育つのを見守る。
・実の緑化予防―実は終盤に急に太る。土から露出すると光に当たって緑化する（ソラニンという毒素が生成）。土寄せをして緑化を予防。黒マルチをしていれば緑化しない。

【春・夏野菜の為のうね作り、春野菜の種まき】

・うね作り…元肥を入れて耕してうねを作る。肥料のあまり要らない野菜、多く要る野菜があるので、植え付け計画を立ててうね立てする。連作障害も可能な範囲で考える。
・小松菜、ホウレンソウ、人参の種まき…アブラナ科の小松菜は秋作は虫（ダイコンハムシ）に悩まされるが、この時期は虫が少なく作りやすい。
・トウモロコシは、3月種まき、4月定植、6月と早植えすると虫（アワノメイガ）の害がましだが、3月に発芽させる（温度を上げる）のが難しい。（トウモロコシは通常は5月に発芽。）
・インゲン豆の種まきは桜の花の散る頃。

5月農業用水路一斉清掃と農園の除草へ協力を

農作業の本番を前に水利組合（農家の組織）を中心に水路の一斉清掃が行われます。地域でそれぞれ作業日が異なります。それぞれの水利組合より日程のお知らせが届きましたら（掲示等）**ご協力お願いします。**

「種は命」を扱う企業

【講習会での聞き取りメモ、文責は福田】

2月21日に島本町農業振興団体協議会の研修で滋賀県のタキイ種苗研究農場を見学。　初代瀧井治三郎氏が京都の地で 1835 年（天保 6 年）に優良種苗の採種・分譲を開始、以降 190 年。種は生きもので温度・湿度を適正に保っても寿命は長いもので 10 年。すなわち種は植え続けなければ命が保てない。（高齢の農家が亡くなると数種類の種（資源）が失われると言う。）
最近は多くが交配（F1）の種で親の A と B を掛け合わせているが、F1から F1 と同じ種は出来ない。

裏面に続く

すなわち、毎年AとBを掛け合わせて作る。その為には元になるAとBを作り続けることが必要。膨大な種(資源)を190年作り続けている継続性こそがベース。そのうえで、品種改良には10年を要すると、毎年何千種類もの系統が育成されている、日々土を相手の地道な積み重ねの姿が見て取れる。ゲノム編集技術を直接利用した品種の開発は行っていないとのこと。

【野菜栽培についての解説・質疑応答よりいくつかを紹介】

✧スイカ　1㎡に1本で4本仕立てにし、16～21番目の花に着果させて2玉収穫する。(*初めの2玉が美味しいということのようだ*)　スイカ、カボチャには酢(食酢)を100倍に薄めて散布(たぶん葉に)すると甘くなる。暑い時は夕方にやる。

✧カボチャ　着果は花の4番目×、8番目△、12番目○。収穫後2週間置くとでんぷんが糖になって甘くなる。*(質問:スイカもカボチャも2週期目になると甘さが減る。対策はないか)*　甘さが減るのは、ツルが長くなると肥料分が先の方まで届かないため。カボチャの場合はツルの途中で土に根を張る場合がある。その時はその根の近くに肥料を置いてやると肥料分が先の方まで届く。

✧ナス　花の形でメシベがオシベより外に出ていない(メシベがオシベより短い)と受粉しない。メシベが短いのは肥料不足の兆候なので即効性の液肥をやる。剪定は、内側の枝を取る。そして、太陽光が当たるように外の方に広げる。それを意識してやれば「何本仕立て」とか考えず放任でも良い。実を1つ取るごとに葉1枚を残して枝を落とす。そうしていけば、切り戻しをしなくても良い。

✧人参(夏蒔き)　種を蒔く時期が遅いと太るが色が付かない。着色適温は16度～20度で、13度以下では着色阻害が起こる。なので、気温が下がる前に肥大させることが必要。

等々詳しいお話が聞けました。更に詳しくは、インターネットで下記をご覧くださいとのこと。

<u>**家庭菜園 野菜栽培マニュアル ｜ 調べる ｜ タキイ種苗株式会社**</u>

(;^ω^)　春で～す

(Yさん)

今年も大根成功!虫にもあまり食べられず葉のきれいな大根が出来ました。少し遅く(たぶん10月)に種を蒔いたのが良かった。一昨年の冬蒔きの種と春蒔きの種を蒔きました。春蒔きの大根は短い大根でした。ブロッコリーはなかなか大きくなりません。

(Fさん)

1回目(9月初め)に定植したキャベツはス～と大きくなりましたが、2回目定植のものは1月末に小さいままで収穫。3回目定植したものは今やっと巻きはじめ、大きくなるのかな?ともかく今年の冬野菜は大きくならない。雨が少ない影響か。 2/16 にジャガイモの植え付け。3月初めの雨でうね全体を一度しっかり濡らし、その後表面が乾いてから人参、春大根、小松菜、ホウレンソウの種を蒔く予定。

(Sさん)

里芋は未だ畑に残っています。収穫した後の九条ネギを深く埋めて白い部分を育ててみることにしました。ビニールトンネル内のホウレンソウ、順調に育っています。ニラ、キャベツにも広げてみました。
冬越しのカブ、ダイコン、花芽が付き始めましたので、葉っぱを落としました。(2/21)

(Oさん)

前回スナップエンドウを10株植えたら一杯できて食べきれなかったので、今回は本数を減らしました。昨年夏のゴーヤ、1本植えただけですがたくさん出来過ぎて、好きですが食べきれず、ゴーヤはもらってくれる人も少ないので今年はやめます。

(Rさん)

人参が大きくなりません、ブロッコリーの側芽が大きくなりません。

農園通信のアーカイブ